

『生活習慣病と腎障害』“あなたの腎臓は大丈夫？”

氏名 加藤 裕一

(施設名) 九州医療センター 臨床検査部

生活習慣病とは、日々の不適切な食事、運動不足、喫煙、飲酒などの生活習慣に起因すると考えられる疾患の総称で、高血圧、耐糖能異常、糖尿病、脂質代謝異常、肥満、メタボリック症候群などが含まれ、これらは、虚血性心疾患、脳梗塞、癌の発症のリスクファクターと考えられています。同時に CKD（慢性腎臓病）の累積発症率や相対危険度が上昇することが日本腎臓学会を初めとした各学会からも報告されています。

現在、我が国において末期腎障害から慢性透析に至る透析導入患者数は、近年増加が落ち着く傾向にはありますが依然として慢性透析患者数全体では 2013 年の報告で約 31 万人を超え、現在もなお増加を続けています。そこで透析導入の基礎疾患に目を向けてみると 2013 年の統計では 43.8%が糖尿病性腎症で、次いで慢性糸球体腎炎 (18.8%)、腎硬化症 (13.0%) となっています。年次の推移を見てみると、糖尿病性腎症の割合が近年軽度上昇から横ばい傾向であり、慢性糸球体腎炎も減少を続けているのに対して、腎硬化症は一貫して増加傾向が認められています。腎硬化症の増加の要因として透析患者の高齢化を反映していると考えられていますが、ここで理解していただきたいことは、糖尿病性腎症や腎硬化症といった糖尿病や高血圧などの生活習慣病を基礎疾患に持った透析患者数が、年々増加しているということです。特に、腎硬化症は、軽度～中等度の高血圧の持続により生じる高血圧性腎障害として位置づけられ、高血圧との関連が深い腎疾患とされています。我が国の高血圧患者数は約 906 万人（平成 23 年度の調査）と言われており年々増加傾向にあります。それでは腎硬化症による透析患者数の増加は高血圧患者の増加によるものなのでしょうか。当然それは大きな要因の一つと考えられますが、高血圧患者数の増加に伴い高血圧に対する治療法や予防法も進歩してきている現在においても尚、腎硬化症による透析導入患者数は年々増加しています。

このことは、腎硬化症の発症や末期腎不全への進行の背景には高血圧とは独立した腎機能増悪因子が存在することを示唆しているかの様に思われます。

高血圧、耐糖能異常、糖尿病、脂質代謝異常、肥満、メタボリック症候群といった生活習慣病の上流にはインスリン抵抗性と言われる病態が存在します。実は、このインスリン抵抗性が生活習慣病における腎障害の発症・進展に大きく関わっているのではないかと考えられています。

今回の講演では、最近の知見も含めインスリン抵抗性と腎障害の関連性を糖尿病性腎症と肥満関連腎症の二つの病態から考えていきたいと思います。

【連絡先】 TEL : 092-852-0700 (内線 2068)

e-mail : y.katou@kyumed.jp